

関中中学校の成り立ち

開校記念日 全校集会

平成27年4月30日





**開校
記念日**
(5月1日)

開校：昭和50年4月1日

校名：東京都練馬区立関中学校

その後、「練馬区立関中学校」へ

今年度、41年目

創立十周年記念誌

東京都練馬区立関中学校



開校当時の様子（昭和50年4月）

- 練馬区立中学校 25番目の開校
- 石神井西中、大泉二中、石神井中の生徒数増加に伴い開校
- 1年6学級、2年5学級、
3年1学級 計12学級

435人で開校

関中 中学校の沿革

- 昭和50年 4月 1日 開校
- 5月 1日 開校記念日制定
- 5月31日 体育館竣工
- 昭和51年 2月 5日 校章決定
- 3月 3日 校旗決定
- 10月 6日 校歌制定発表会
- 昭和58年 4月 1日 P T A 発足
- 昭和60年 11月 16日 開校10周年
- 平成 7年 11月 16日 開校20周年
- 平成17年 10月 15日 開校30周年
- 平成27年 10月 31日 開校40周年式典

校章の決定

(昭和51年2月5日)

校章の創案者（菅野良治先生：技術科 昭和55年～61年在籍）

本校開校の昭和50年に、生徒・教職員より公簿、集まった十数点の作品から選ばれたものに、さらに修整を加え、決定した。

「関」の文字をアレンジし、すくすく育つ生徒を象徴する「木」をデザインしたもの。校章の上の方には、「中」をデザインして小鳥がとまっている形も描かれている。



なぜ、関中学校とこののか？



検討された校名

◆ 関町中学校

(昭和49年12月
14日 仮称 関町
中学校設置と決定)

◆ 関中学校

◆ 関町北中学校

◆ 北中学校 等

地主さんから土地の提供を受けたりして地元の協力を得てきたので、地元有志の方々20名程に集まっていた。その場で、ここは「関」という地名なので「関中学校」という提案があり、衆議が一決した。

ふるさと文化館資料 より

(石神井公園)

村々の移り変わり

江戸時代、区内にはいくつかの村がありました。ほとんどの土地は幕府が代官に管理をまかせる幕府番精領でしたが、大名や旗本・御家人などが支配する知行地も存在しました。これらの村は明治20年代に合併し、さらに昭和7(1932)年に東京市に編入され、板橋区の一部になりました。昭和22(1947)年に板橋区から独立して練馬区が誕生しました。

1663



1798



1889



1891



1932



1947



2009



1663年（寛文3年）江戸時代





上石神井村

下石神井村

田中村

関村

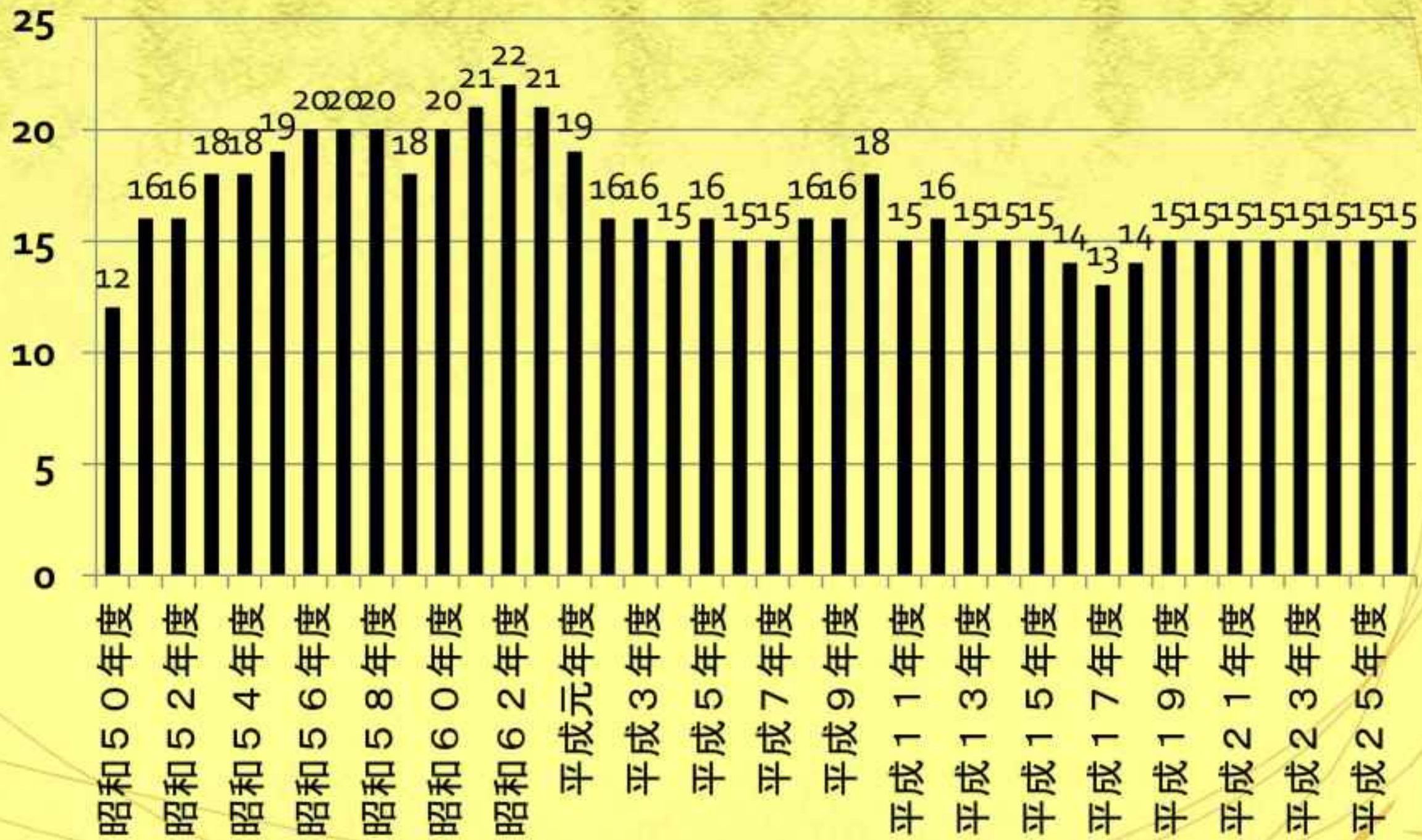
旗本・今川家

竹下新田

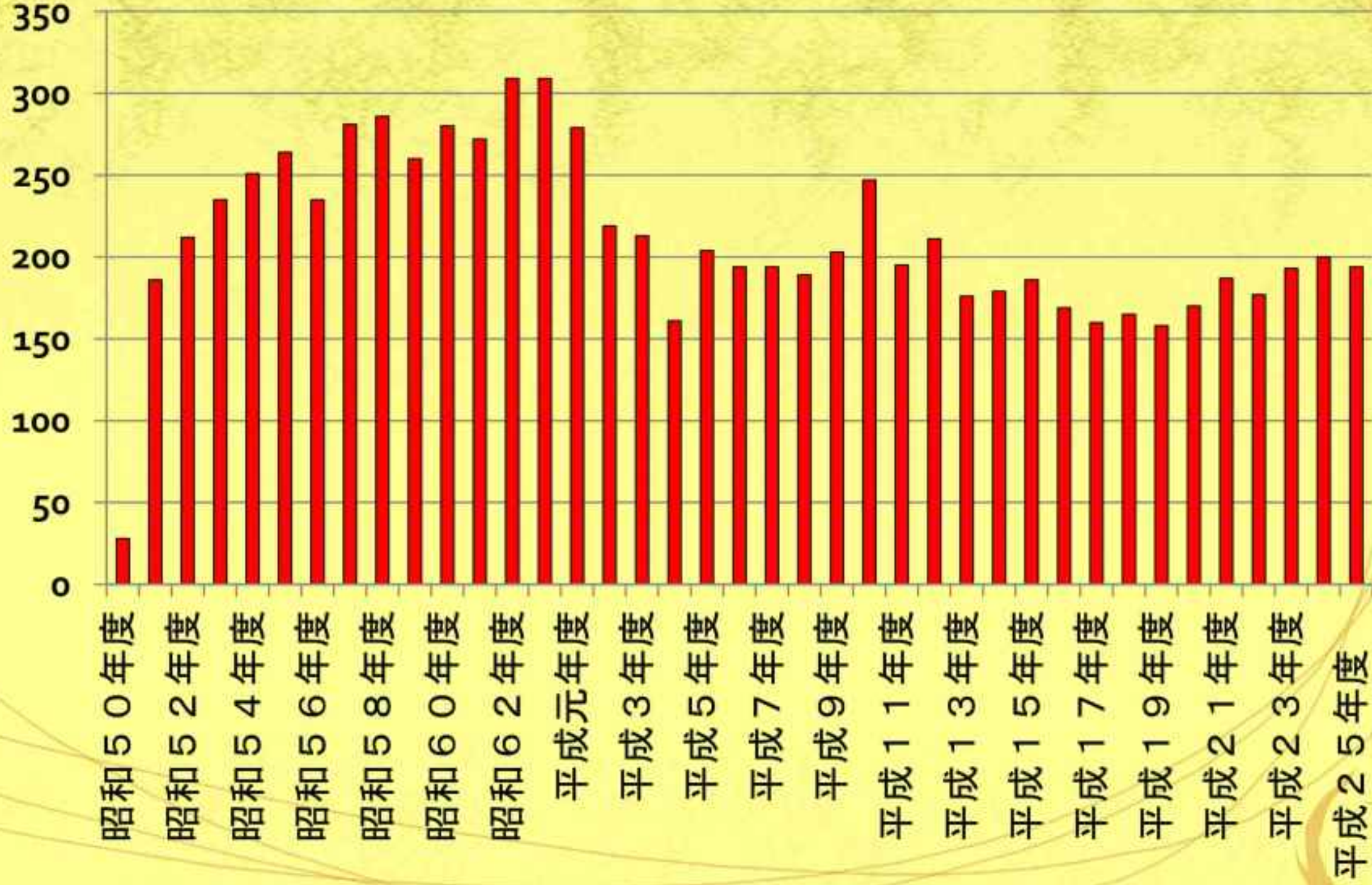
2009年（平成21年）現在



40年間の「学級数」の推移



40年間の卒業生数の推移



卒業生数

8 4 1 3 人

平成27年3月末現在

関中のシンボル「櫟（ケヤキ）」



新緑の中庭の二本のケヤキ

欒 (ケヤキ)



白山神社の大けやき



昭和60年（創立10周年）の櫛



玄関と体育館

現在の櫨（平成26年夏）



バードバス（水浴び場） ちからの泉



校歌 (昭和51年10月選定)

校歌

中山 知子 作詞

三善 晃 作曲

一、濃いみどりの木々は さわやかに讃えるよ

伸びゆく若木 らからの泉

濃いみどりの木々は さわやかに讃えるよ

我等の光る世界 語りつつ 心に奏下る

希望の歌 それはいま 現在をひとすじに

美しく生まる翼

二、朝ごとの富士は おおらかに見守るよ

嵐にめげず つらぬく真実

朝ごとの富士は おおらかに見守るよ

我等の創る道を 求めつつ 手に手に掲げる

理想の旗 それは未来 未来限りなく

青空をかける翼 翼 翼 岡の翼

岡中学校の翼 翼

関中の屋上から見える「富士山」





関中学校 全景

(創立30周年 平成17年)



昭和38年の地域の航空写真



8 小関バス停付



昭和30(1955)年



平成22(2010)年



母校に愛着をもち
関中生であることに誇りをもちよう！

終

